

令和7年度 評価項目の達成及び取組状況

長浜幼稚園

分野	評価項目	評価の着眼点	自己評価		学校関係者評価	評価結果を踏まえた今後の取り組み
			達成及び取組状況	評価	評価	
教育課程・指導	①学年・学級経営	教職員は、教育目標の達成を目指した学級経営を行っているか。	年度当初に幼稚園経営について園長より話があった。それを基盤に学級経営案や研究の取組、指導計画などに下ろし、保育の構想につなげたり、定期的な評価・反省を行ったりすることができた。	4	4	自己評価及び学校関係者評価をふまえた改善策や次年度の目標を具体的に示す。 教育目標の共通理解を年度当初、また学期中も必要に応じて行うことで職員全体の理解の深まりにつなげていく。
	②幼児理解	教職員は、一人一人の幼児の発達の姿から課題を捉えて保育を行っているか。	毎週保育カンファレンスを継続して行うことにより、全職員での幼児理解や保育構想の検討を行い、チーム保育にいかしていった。	4	4	他の業務の支障にならないようなカンファレンスの持ち方を工夫し、継続していきたい。
	③特別支援教育	特別な支援を必要とする幼児の実態や課題を明確にし、計画的・組織的に指導を行っているか。	市の巡回訪問、園内の保育カンファレンスを通して、定期的の実態把握や支援方法について検討した。	3	4	園での支援と家庭での支援について職員間で共通理解し、支援方法を保護者の目線にも立ち、共に考えていく体制作りに努めていきたい。
	④人権・同和教育	教職員は、自らの人権感覚を磨き、幼児に人権意識の芽生えを培うように配慮しているか。	日常生活の中で教師がモデルとなる姿(温かいかわりや言葉遣いなど)を心がけながら園児や保護者、職員に接した。	4	4	今後も積極的に研修会に参加して、人権感覚を養ったり、学んだことを園内で共有したりしていきたい。
	⑤行事	教職員は、行事を幼児の発達を促す機会と捉え、工夫、改善しているか。	3学年混合学級の中で、チーム保育を行いながら園児一人一人の発達段階に応じた保育内容や環境構成に努め、日頃の遊びや生活が行事につながっていくよう努めていった。	4	4	今後も職員間の振り返りや保護者の方の感想から行事の反省・評価をすることを大切にし、次年度の活動にいかしていく。
	⑥保幼小連携	近隣の小学校等との連携を密にし、なめらかな接続に努めているか。	毎週昼休みの時間に児童と園児が交流したり、園外保育で小学校の校庭を散歩したりして触れ合うことで、小学校が園児にとって身近に感じる存在となっていた。小学校区の保育園との交流の機会もあり、同じ就学先の幼児が触れ合える良い機会となっていた。また、長浜小学校区の小学校、3保育園との幼小接続のための所属長会を立ち上げた。今後、架け橋期のカリキュラム作りに向けて協力して動いていく。	4	4	今後も機会を捉えて小学校や保育園と交流する機会がもてるよう、積極的に働きかけていきたい。また、架け橋期のカリキュラムについて園内、また校区内の幼保小が共有できるとよりスムーズな接続につながるので、できることから足並みをそろえていけるよう努めたい。
家庭・地域との連携	⑦家庭・地域との連携	幼稚園と保護者、幼稚園と地域（未就園児等）との協力関係はできているか。	保護者とは、SNSやクラスだより、保育公開、送迎時に直接コミュニケーションをとることなどを心がけ、園生活の様子を発信してきた。日頃から、地域の方に積極的に声をかけたり、運動会や作品展などに招待したりして協力をお願いに努めている。今年度から、未就園児教室も開催するなど、新たな取組も実施した。園長便りの地域回覧やブログの開設は、広く本園の教育について知っていただく機会となっている。	4	4	ブログを活用することは、タイムリーな情報や幼稚園教育の実態を、保護者の方だけでなく、幅広い方に発信することができ、反響もあるので、今後も継続していきたい。
研修	⑧研究・研修	教職員一人一人が、園内外の研究・研修の機会を自己研鑽の場として受け止め、進んで研究・研修に取り組んでいるか。	指導員を招いての園内保育研究を実施し、保育の充実に努めた。市主催の研修会や、市幼稚園教育研究会の研修会などに積極的に参加し、自己研鑽に励んだ。各自が研修会で学んだことを職員会議などで話題にし、本園の教育活動の改善にいかすことに努めた。	4	4	小規模園の混合学級保育のあり方について、引き続き研究していく。次年度は、ブロック研究会を受けるにあたり、幼児教育指導員に指導を仰いだり、他園の教員の意見も取り入れたりしながら研鑽に努める。
組織運営	⑨園務	教職員は、他教職員と協働し、計画的に園務を遂行しているか。	行事が一時に集中しないように見直したり、職員で役割分担をしたりして、円滑に園務が遂行できるようにした。定期的な保育カンファレンスや職員会議に加え、日頃からの「ほう・れん・そう」を心掛け、計画的に園務を行った。	4	4	終礼時に業務の進捗状況を確認する時間を作ったり、周知板をもっと活用したりして、優先すべきことや協力を仰ぎたいことなどが共通理解できるようにする。
安全管理・保健管理	⑩危機管理	園の危機管理及び幼児の安全や衛生の管理体制を全教職員が理解し、適切な対応に努めているか。	園内外の危険場所について職員同士で把握し、園児が安全に生活できる環境作りに努めた。また、園児がけがをした際には、再発防止のための方策を全職員で検討し、実行しようと努めた。避難訓練や引き渡し訓練、小学校と合同の訓練、不審者対応職員研修などを実施し、園児の安全意識を高めたり、職員の対応力を高めたりすることに努めた。訓練等の事後の振り返りや反省を職員間で行い、多角的な視点で見ること、職員一人一人の危機管理意識の向上に努めた。	4	4	長時間の預かり保育時間なども踏まえ、いろいろな職員体制時を想定した危機対応について、引き続き検討、訓練し、有事に備える。
教育環境整備	⑪園地・園舎・遊具等の施設・整備	園地・園舎・遊具等の施設・設備を定期的に点検し、必要な改善・管理を行っているか。	普段から異状がないか気を配る意識をもつと共に、月1回の安全点検を職員間でローテーションして実施し、多数の目で点検して安全管理に努め、必要に応じて修繕を実施した。	4	4	日々の清掃活動や整備活動、毎月安全点検で、全職員協力して危険個所の早期発見に努め、早期修繕を行う。営繕箇所の要望など、市教委と連携して施設の管理に努める。

※評価基準 4：十分達成している 3：概ね達成している 2：改善を要する部分がある 1：大いに改善を要する